

Oracle® Collaboration Suite

クイック・インストレーション・ガイド

10g リリース 1 (10.1.2) for Solaris Operating System (SPARC)

部品番号 : B25911-01

2005 年 12 月

ORACLE®

原本名 : Oracle Collaboration Suite Quick Installation Guide, 10g Release 1 (10.1.2) for Solaris Operating System (SPARC)

原本部品番号 : B25464-02

Copyright © 2005 Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社とその契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation, and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Retek は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかる目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしました、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

はじめに

このマニュアルで説明されている各種サービスは日本オラクル社から提供されるサービスです。サービスは、製品をご購入された日本オラクル正規代理店各社から提供される場合もありますが、サービス内容はこのマニュアルの説明と異なることがあります。

- ご注文内容の確認
- 概要
- このマニュアルで説明するインストール・タイプ
- インストーラの起動
- 基本インストールの実行
- インフラストラクチャおよびアプリケーションのインストールの実行
- 複数コンピュータへのインストールの実行
- インストール後のタスク
- 要件のチェック
- 「ようこそ」ページへのアクセス
- 追加情報
- その他の情報
- ドキュメントのアクセシビリティについて

1 ご注文内容の確認

メディア・パック受領後、ただちに同梱の Packing List をもとにパッケージ内容物を確認してください。破損、欠品、不明な点などのお問合せは、本製品をご購入された日本オラクル正規代理店、もしくは Oracle Direct までお寄せください。

メディア・パックには、このマニュアルの他に次の製品が同梱されています。

- **製品メディア**

製品メディアには、製品をインストールするためのソフトウェアおよび README ファイルが含まれています。

- **Start Here CD (赤いレーベル)**

Start Here CD には、インストール・マニュアル、リリース・ノート、お役に立つインターネット・リンクおよびメディア・パックに関する情報が含まれています。

- **Oracle Collaboration Suite JP Documentation Library**

Oracle Collaboration Suite JP Documentation Library には、オラクル製品のオンライン・ドキュメントが含まれています。

注意: メディア・パックによって、Start Here CD や Oracle Collaboration Suite JP Documentation Library が同梱されていない製品があります。Packing List を参照して確認してください。

2 概要

このマニュアルでは、Oracle Collaboration Suite のインストール方法について説明します。

3 このマニュアルで説明するインストール・タイプ

このマニュアルは、次の構成で Oracle Collaboration Suite をインストールするユーザーを対象としています。

- 1台のコンピュータへの Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャおよびアプリケーションのインストール

このトポロジでは、1台のコンピュータに Oracle Collaboration Suite がインストールされます。Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャと Oracle Collaboration Suite アプリケーションの両方が同じコンピュータにインストールされます。

- 複数コンピュータへのインストール

このトポロジでは、1台のコンピュータに Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャがインストールされ、別のコンピュータに Oracle Collaboration Suite アプリケーションがインストールされます。

より複雑なトポロジが必要な場合は、Oracle Collaboration Suite のインストレーション・ガイドで詳細なインストール手順を参照してください。

Oracle Collaboration Suite をインストールする前に、Oracle Collaboration Suite のリリース・ノートで最新情報を確認してください。

4 インストーラの起動

インストーラを起動するには、次のようにします。

1. 44 ページの 「要件のチェック」 にリストされている最小要件をすべてチェックします。
2. Administrators グループのメンバーであるユーザーとしてコンピュータにログインします。
3. ディスクを挿入します。

Oracle Collaboration Suite のインストール・メディアを挿入します。

4. コンピュータがディスクを自動的にマウントしない場合は、8 ページの 「DVD-ROM のマウント」 で、DVD-ROM を手動でマウントする手順を参照してください。

Volume Manager を使用している場合、DVD-ROM は、通常 /dvd に自動的にマウントされます。

5. 次のようにして、インストーラを起動します。

注意：マウント・ポイント・ディレクトリからインストーラを実行しないでください。次の行の cd コマンドに注意してください。このコマンドは、現行ディレクトリをホーム・ディレクトリに変更するため、インストーラはマウント・ポイントから起動しません。

DVD-ROM の場合は、次のとおりです。

```
# cd  
# /dvd/ocs/runInstaller
```

これにより、Oracle Universal Installer が起動するため、このインストーラを使用して Oracle Collaboration Suite をインストールします。

4.1 DVD-ROM のマウント

コンピュータが DVD-ROM を自動的にマウントしない場合は、次の手順を実行します。

1. DVD を挿入します。
2. root ユーザーとしてログインします。

```
# su  
Password:
```

3. 次のようにして、DVD-ROM マウント・ポイント・ディレクトリを作成します。

```
# mkdir /dvd
```

4. 次のようにして、DVD-ROM ドライブをマウント・ポイント・ディレクトリにマウントします。

```
# mount options device_name /dvd
```

次に例を示します。

```
# mount -r -F hsfs device_name /dvd
```

5 基本インストールの実行

基本インストール方法を使用して Oracle Collaboration Suite を 1 台のコンピュータにインストールするには、次のようにします。

1. インストーラを起動します。詳細は、7 ページの「[インストーラの起動](#)」を参照してください。
2. 「[インストール方法の選択](#)」画面

基本インストール：このインストール方法を選択すると、Oracle Collaboration Suite を迅速にインストールできます。このインストール方法に必要なユーザー入力は最小限です。この画面で指定する次の情報を使用してソフトウェアがインストールされます。

- **インストール・ディレクトリ：**ソフトウェアをインストールするディレクトリ (Oracle ホーム・ディレクトリ) へのフルパスを指定します。
- **パスワード：**管理アカウント (スキーマ) の共通パスワードを指定します。
- **パスワードの確認：**指定したパスワードを再入力して、そのパスワードが正しいことを確認します。
- 「**コンポーネントの選択**」をクリックして「構成するコンポーネントの選択」画面を表示します。この画面では、インストール時に構成しないコンピュータを選択解除できます。

- 「言語の設定」をクリックして「言語の選択」画面を表示します。この画面では、Oracle Collaboration Suite のインストールに使用される言語を選択できます。
注意：「選択された言語」リストで選択されているデフォルト言語は「英語」です。ただし、Oracle Collaboration Suite をインストールするコンピュータのオペレーティング・システムの言語が英語以外の場合は、その言語も「選択された言語」リストに自動的に追加されます。その結果、英語とオペレーティング・システムのロケール言語の 2 つの言語が Oracle Collaboration Suite 基本インストールの一部としてインストールされます。

拡張インストール：このインストール方法は、次の場合に選択します。

- カスタム・ソフトウェア・インストールを実行するか、別のデータベース構成を選択する場合
- インストール・タイプを選択する場合
- 既存のデータベースを有効にする場合
- 別の製品言語を選択する場合
- 管理スキーマごとに異なるパスワードを指定する場合

「基本インストール」を選択し、「次へ」をクリックします。

3. このコンピュータに今回初めて Oracle 製品をインストールする場合は、次の追加画面が表示されます。

a. 「インベントリ・ディレクトリと資格証明の指定」画面

インベントリ・ディレクトリのフルパスを入力してください：
インベントリ・ディレクトリのフルパスを入力します。製品
ファイルの Oracle ホーム・ディレクトリ以外のディレクトリを
入力します。

例 : `/home/oracle/oraInventory`

オペレーティング・システム・グループ名の指定 : インベント
リ・ディレクトリへの書き込み権限を付与するオペレーティング・
システム・グループを選択します。

例 : `oinstall`

「次へ」をクリックします。

b. orainstRoot.sh の実行ダイアログ・ボックス

別のシェルで `root` ユーザーとして `orainstRoot.sh` スクリプ
トを実行します。このスクリプトは、インベントリ・ディレク
トリにあります。

スクリプトを実行した後、「続行」をクリックします。

4. 「サマリー」画面

選択内容を確認し、「インストール」をクリックします。

インストーラによってファイルがインストールされます。

5. 「root.sh の実行」ダイアログ・ボックス

注意：このダイアログ・ボックスが表示されるまで、root.sh スクリプトは実行しないでください。

このダイアログ・ボックスが表示されたら、root ユーザーとして別のシェルで root.sh スクリプトを実行します。スクリプトは、このインスタンスの Oracle ホーム・ディレクトリにあります。

注意：root.sh のプロンプトで、警告メッセージが表示されることがあります。これらのメッセージは無視し、インストールを続行してください。

「OK」をクリックします。

6. 「コンフィギュレーション・アシスタント」画面

この画面には、コンフィギュレーション・アシスタントの進捗状況が表示されます。コンフィギュレーション・アシスタントによって、Oracle Collaboration Suite コンポーネントが構成されます。

7. 「インストールの終了」画面

「終了」をクリックしてインストーラを終了します。

注意：インストールの最後に表示される情報は、
`$ORACLE_HOME/install/setupinfo.txt` ファイルにも格納
されています。このファイルには、Oracle Collaboration Suite に
関する概要情報と、URL へのリンクが含まれています。

6 インフラストラクチャおよびアプリケーションのインストールの実行

このトポロジでは、次のコンポーネントを提供する Oracle Collaboration Suite が 1 台のコンピュータにインストールされます。

- Oracle Collaboration Suite データベース
- Identity Management
- Oracle Collaboration Suite アプリケーション

Oracle Collaboration Suite を 1 台のコンピュータにインストールするには、次のようにします。

1. インストーラを起動します。詳細は、7 ページの [「インストーラの起動」](#) を参照してください。
2. 「インストール方法の選択」 画面
「拡張インストール」を選択し、「次へ」をクリックします。

3. このコンピュータに今回初めて Oracle 製品をインストールする場合は、次の追加画面が表示されます。

- a. 「インベントリ・ディレクトリと資格証明の指定」画面
(拡張インストールのみ)

インベントリ・ディレクトリのフルパスを入力してください:
インベントリ・ディレクトリのフルパスを入力します。製品
ファイルの Oracle ホーム・ディレクトリ以外のディレクトリを
入力します。

例: `/home/oracle/oraInventory`

オペレーティング・システム・グループ名の指定: インベント
リ・ディレクトリへの書き込み権限を付与するオペレーティング・
システム・グループを選択します。

例: `oinstall`

「次へ」をクリックします。

- b. orainstRoot.sh の実行ダイアログ・ボックス

別のシェルで `root` ユーザーとして `orainstRoot.sh` スクリプ
トを実行します。このスクリプトは、インベントリ・ディレク
トリにあります。

スクリプトを実行した後、「続行」をクリックします。

4. 「ファイルの場所の指定」画面 (拡張インストールのみ)

名前 : この Oracle ホームを識別する名前を入力します。

例 : *infra_home_10_1_2*

インストール先パス : インストール先のディレクトリのフルパスを入力します。これが Oracle ホームです。インストール先のディレクトリが存在しない場合は、インストーラによって作成されます。

例 : *home/oracle/orainfra*

「次へ」をクリックします。

5. 「ハードウェアのクラスタ・インストール・モードの指定」画面 (拡張インストールのみ)

この画面は、コンピュータがハードウェア・クラスタの一部である場合にのみ表示されます。

ハードウェア・クラスタは Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャおよびアプリケーションでサポートされていないため、Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャおよびアプリケーションをインストールしている場合は「ローカル・インストール」を選択します。

「次へ」をクリックします。

6. 「インストールする製品の選択」画面（拡張インストールのみ）

Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャおよびアプリケーション 10.1.2.0.0 を選択し、「次へ」をクリックします。

7. 「製品固有の前提条件のチェック」画面（拡張インストールのみ）

この画面では、Oracle Collaboration Suite をインストールおよび構成するためのすべてのシステム要件をシステムが満たしていることを確認します。

注意：カーネル・パラメータのチェックに失敗し、必要な変更を加えた後で「**再試行**」をクリックした場合、インストーラではチェックが再実行されません。カーネル・パラメータを変更した後で、「**ユーザー検証済**」を選択して先に進んでください。変更を検証するには、インストーラを再起動する必要があります。

8. 「言語の選択」画面（拡張インストールのみ）

この画面では、Oracle Collaboration Suite コンポーネントの実行に使用する言語を選択できます。

「**使用可能な言語**」リストから必要な言語を 1 つまたは複数選択し、「**選択された言語**」リストに追加します。

「次へ」をクリックします。

9. 「Collaboration Suite Infrastructure and Applications の手順」画面
(拡張インストールのみ)
画面上の説明をよく読んでから、「**次へ**」をクリックします。
10. 「構成するコンポーネントの選択」画面 (拡張インストールのみ)
インストールする Oracle Collaboration Suite アプリケーション・コンポーネントを選択します。
「**次へ**」をクリックします。
注意：インストール中（「**インストール**」ボタンをクリックする前）に、構成するアプリケーションのリストに変更を加える必要がある場合は、インストールを終了し、再起動する必要があります。
11. 「Internet Directory のネームスペースの指定」画面
(拡張インストールのみ)
画面に表示されているネームスペースを選択し、「**次へ**」をクリックします。

12. 「データベース構成オプションの指定」画面（拡張インストールのみ）

グローバル・データベース名 : Oracle Collaboration Suite データベースの名前を入力し、データベース名にドメイン名を追加します。

例 : `orcl.yourcompany.com`

SID : Oracle Collaboration Suite データベースのシステム識別子を入力します。通常はグローバル・データベース名ですが、ドメイン名は含まれません。SID は、すべてのデータベースで一意である必要があります。

例 : `orcl`

データベース・ファイルの位置の指定 : データファイル・ディレクトリの親ディレクトリのフルパスを指定します。指定したディレクトリはすでに存在している必要があります。このディレクトリでの書き込み権限が必要です。

インストーラでは、指定したパスのサブディレクトリにデータファイルがインストールされます。インストーラでは、サブディレクトリの名前にデータベース名が使用されます。たとえば、グローバル・データベース名に `orcl.yourcompany.com` を指定し、データベース・ファイルの場所に `/data/dbfiles` を指定した場合は、データベース・ファイルが `/data/dbfiles/orcl` ディレクトリに配置されます。

「次へ」をクリックします。

13. 「データベース・スキーマのパスワードの指定」画面
(拡張インストールのみ)

管理データベース・ユーザーのパスワードを設定します。このユーザーは、データベース管理に使用される権限が付与されたアカウントです。

すべてのユーザーに同じパスワードを使用することも、ユーザーごとに異なるパスワードを指定することもできます。

「次へ」をクリックします。

14. 「アプリケーション・パスワードの指定」画面
(拡張インストールのみ)

インストール時に選択したアプリケーションに対して作成される管理アカウントのパスワードを指定します。

すべてのユーザーに同じパスワードを使用することも、ユーザーごとに異なるパスワードを指定することもできます。

「次へ」をクリックします。

15. 「Oracle Mail ドメイン情報の指定」画面 (拡張インストールのみ)

Mail ドメイン: IMAP/SMTP のローカル (ネットワーク)・ドメインまたはその他のメール・プロトコルを指定します。

「次へ」をクリックします。

16. 「ポート構成オプションの指定」画面 (拡張インストールのみ)

「自動ポート選択」を選択し、「次へ」をクリックします。

注意: 「自動」オプションでは、Oracle HTTP Server の場合は 7777 ~ 7877 のポート、SSL を使用する Oracle HTTP Server の場合は 4443 ~ 4543 のポートのみが使用されます。Oracle HTTP Server に 80、SSL を使用する Oracle HTTP Server に 443 をポート番号として設定する必要がある場合、「ポートを手動で指定」オプションを選択する必要があります。

17. 「サマリー」画面

選択内容を確認し、「インストール」をクリックします。

インストーラによってファイルがインストールされます。

18. 「root.sh の実行」ダイアログ・ボックス

注意: このダイアログ・ボックスが表示されるまで、root.sh スクリプトは実行しないでください。

このダイアログ・ボックスが表示されたら、root ユーザーとして別のシェルで root.sh スクリプトを実行します。スクリプトは、このインスタンスの Oracle ホーム・ディレクトリにあります。

注意: root.sh のプロンプトで、警告メッセージが表示されることがあります。これらのメッセージは無視し、インストールを続行してください。

「OK」をクリックします。

注意：1台のコンピュータへのインストールでは、このダイアログ・ボックスは2回表示されます。最初はインフラストラクチャのインストール中、次はアプリケーション層のインストール中です。

19. 「コンフィギュレーション・アシスタント」画面

この画面には、コンフィギュレーション・アシスタントの進捗状況が表示されます。コンフィギュレーション・アシスタントによって、Oracle Collaboration Suite コンポーネントが構成されます。

20. インストールの終了画面

「終了」をクリックしてインストーラを終了します。

注意：インストールの最後に表示される情報は、\$ORACLE_HOME/install/setupinfo.txt ファイルにも格納されています。このファイルには、Oracle Collaboration Suite に関する概要情報と、URLへのリンクが含まれています。

7 様々なインストールの実行

このトポロジでは、1台のコンピュータに Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャがインストールされ、別のコンピュータに Oracle Collaboration Suite アプリケーションがインストールされます。

複数コンピュータ・トポロジの設定には、次の作業が含まれます。

- [Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャのインストール](#)
- [Oracle Collaboration Suite アプリケーションのインストール](#)

Oracle Collaboration Suite アプリケーションでは Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャのサービスを使用するため、最初にインフラストラクチャをインストールする必要があります。

7.1 Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャのインストール

新規データベースおよび新規 Oracle Internet Directory とともに Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャをインストールするには、次のようにします。

1. インストーラを起動します。詳細は、7ページの「[インストーラの起動](#)」を参照してください。
2. 「[インストール方法の選択](#)」画面
「拡張インストール」を選択し、「次へ」をクリックします。

3. このコンピュータに今回初めて Oracle 製品をインストールする場合は、次の追加画面が表示されます。

- a. 「インベントリ・ディレクトリと資格証明の指定」画面
(拡張インストールのみ)

インベントリ・ディレクトリのフルパスを入力してください：
インベントリ・ディレクトリのフルパスを入力します。製品
ファイルの Oracle ホーム・ディレクトリ以外のディレクトリを
入力します。

例 : `/home/oracle/oraInventory`

オペレーティング・システム・グループ名の指定：インベント
リ・ディレクトリへの書き込み権限を付与するオペレーティング・
システム・グループを選択します。

例 : `oinstall`

「次へ」をクリックします。

- b. orainstRoot.sh の実行ダイアログ・ボックス
(拡張インストールのみ)

別のシェルで `root` ユーザーとして `orainstRoot.sh` スクリプ
トを実行します。このスクリプトは、インベントリ・ディレク
トリにあります。

スクリプトを実行した後、「続行」をクリックします。

4. 「ファイルの場所の指定」画面（拡張インストールのみ）

名前：この Oracle ホームを識別する名前を入力します。

例：infra_home_10_1_2

インストール先パス：インストール先のディレクトリのフルパスを入力します。これが Oracle ホームです。インストール先のディレクトリが存在しない場合は、Oracle Universal Installer によって作成されます。

例：home/oracle/orainfra

「次へ」をクリックします。

5. 「ハードウェアのクラスタ・インストール・モードの指定」画面

（拡張インストールのみ）

この画面は、コンピュータがハードウェア・クラスタの一部である場合にのみ表示されます。

ハードウェア・クラスタは Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャでサポートされていないため、Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャをインストールしている場合は「ローカル・インストール」を選択します。

「次へ」をクリックします。

6. 「インストールする製品の選択」画面（拡張インストールのみ）
Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャ 10.1.2.0.0 を選択し、「次へ」をクリックします。
7. 「インストール・タイプの選択」画面（拡張インストールのみ）
「Identity Management」と Collaboration Suite Database を選択し、「次へ」をクリックします。
8. 「製品固有の前提条件のチェック」画面（拡張インストールのみ）
この画面では、Oracle Collaboration Suite をインストールおよび構成するためのすべてのシステム要件をシステムが満たしていることを確認します。
注意：カーネル・パラメータのチェックに失敗し、必要な変更を加えた後で「再試行」をクリックした場合、インストーラではチェックが再実行されません。カーネル・パラメータを変更した後で、「ユーザー検証済」を選択して先に進んでください。変更を検証するには、インストーラを再起動する必要があります。
「次へ」をクリックします。

9. 「言語の選択」画面（拡張インストールのみ）

この画面では、Oracle Collaboration Suite コンポーネントの実行に使用する言語を選択できます。

「使用可能な言語」リストから必要な言語を 1 つまたは複数選択し、「選択された言語」リストに追加します。

「次へ」をクリックします。

10. 「構成オプションの選択」画面（拡張インストールのみ）

「**Oracle Internet Directory**」を選択します。

「**OracleAS Single SignOn**」を選択します。

「**OracleAS Delegated Administration Service**」を選択します。

「**Oracle Directory Integration and Provisioning**」を選択します。

「**OracleAS Certificate Authority**」は選択しないでください。

「**高可用性およびレプリケーション**」は選択しないでください。

「次へ」をクリックします。

11. 「Internet Directory のネームスペースの指定」画面

（拡張インストールのみ）

「**推奨ネームスペース**」を選択し、「次へ」をクリックします。

12. 「ポート構成オプションの指定」画面（拡張インストールのみ）

コンポーネントのデフォルトのポートを使用するには、「**自動ポート選択**」を選択します。

デフォルト・ポートを使用しない場合は、「**ポートを手動で指定**」を選択し、ポートの選択対象のコンポーネントを選択します。

注意：「自動」オプションでは、Oracle HTTP Server の場合は 7777 ~ 7877 のポート、SSL を使用する Oracle HTTP Server の場合は 4443 ~ 4543 のポートのみが使用されます。Oracle HTTP Server に 80、SSL を使用する Oracle HTTP Server に 443 をポート番号として設定する必要がある場合、「**ポートを手動で指定**」オプションを選択する必要があります。

「次へ」をクリックします。

13. 「ゲスト・アカウントのパスワード」画面（拡張インストールのみ）

ゲスト・アカウントのパスワードを入力して確認し、「次へ」をクリックします。

14. 「データベース構成オプションの指定」画面

グローバル・データベース名 : Oracle Collaboration Suite データベースの名前を入力し、データベース名にドメイン名を追加します。

例 : `orcl.yourcompany.com`

SID : Oracle Collaboration Suite データベースのシステム識別子を入力します。通常はグローバル・データベース名ですが、ドメイン名は含まれません。SID は、すべてのデータベースで一意である必要があります。

例 : `orcl`

データベース・ファイルの位置の指定 : データファイル・ディレクトリの親ディレクトリのフルパスを指定します。指定したディレクトリはすでに存在している必要があります。このディレクトリでの書き込み権限が必要です。

インストーラでは、指定したパスのサブディレクトリにデータファイルがインストールされます。インストーラでは、サブディレクトリの名前にデータベース名が使用されます。たとえば、グローバル・データベース名に `orcl.yourcompany.com` を指定し、データベース・ファイルの場所に `/data/dbfiles` を指定した場合は、データベース・ファイルが `/data/dbfiles/orcl` ディレクトリに配置されます。

「次へ」をクリックします。

15. 「データベース・スキーマのパスワードの指定」画面
(拡張インストールのみ)

管理データベース・ユーザーのパスワードを設定します。このユーザーは、データベース管理に使用される権限が付与されたアカウントです。

すべてのユーザーに同じパスワードを使用することも、ユーザーごとに異なるパスワードを指定することもできます。

「次へ」をクリックします。

16. 「インスタンス名と ias_admin パスワードの指定」画面
(拡張インストールのみ)

インスタンス名 : このインスタンスの名前を入力します。インスタンス名には、英数字以外にドル記号 (\$) およびアンダースコア (_) が使用できます。1台のコンピュータに Oracle Collaboration Suite のインスタンスが複数ある場合、インスタンス名は一意にする必要があります。

例 : *infra*

「ias_admin パスワード」および「パスワードの確認」 : *ias_admin* ユーザーのパスワードを入力し、確認します。このユーザーは、このインスタンスの管理ユーザーです。

パスワードは 5 文字以上で構成されている必要があります、文字の 1 つは数字にする必要があります。

例 : *welcome99*

「次へ」をクリックします。

17. 「サマリー」画面

選択内容を確認し、「インストール」をクリックします。

インストーラによってファイルがインストールされます。

18. 「root.sh の実行」ダイアログ・ボックス

注意: このダイアログ・ボックスが表示されるまで、root.sh スクリプトは実行しないでください。

このダイアログ・ボックスが表示されたら、root ユーザーとして別のシェルで root.sh スクリプトを実行します。スクリプトは、このインスタンスの Oracle ホーム・ディレクトリにあります。

注意: root.sh のプロンプトで、警告メッセージが表示されることがあります。これらのメッセージは無視し、インストールを続行してください。

「OK」をクリックします。

19. 「コンフィギュレーション・アシスタント」画面

この画面には、コンフィギュレーション・アシスタントの進捗状況が表示されます。コンフィギュレーション・アシスタントによって、Oracle Collaboration Suite コンポーネントが構成されます。

20. インストールの終了画面

「終了」をクリックしてインストーラを終了します。

注意：インストールの最後に表示される情報は、\$ORACLE_HOME/install/setupinfo.txt ファイルにも格納されています。このファイルには、Oracle Collaboration Suite に関する概要情報と、URL へのリンクが含まれています。

7.2 Oracle Collaboration Suite アプリケーションのインストール

Oracle Collaboration Suite アプリケーションのインストールを開始する前に、次の項で説明するインストール前のタスクを実行する必要があります。

インストール前のタスク

アプリケーション層をインストールする前に、次のコマンドを使用して sendmail が稼働しているかどうかを確認します。

```
prompt> ps -elf | grep sendmail
```

sendmail が稼働している場合は、root ユーザーとして次のように停止します。

```
prompt> /etc/init.d/sendmail stop
```

root ユーザーとして次のコマンドを使用して、sendmail を使用不可にします。

```
prompt> chmod -x /etc/init.d/sendmail
```

Oracle Collaboration Suite アプリケーションのインストール手順

次の手順では、Oracle Collaboration Suite アプリケーションをインストールし、24 ページの「[Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャのインストール](#)」で説明した手順に従ってインストールした Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャを使用するように構成します。

1. インストーラを起動します。詳細は、7 ページの「[インストーラの起動](#)」を参照してください。

2. 「[インストール方法の選択](#)」画面

「[拡張インストール](#)」を選択し、「[次へ](#)」をクリックします。

3. このコンピュータに今回初めて Oracle 製品をインストールする場合は、次の追加画面が表示されます。

a. 「[インベントリ・ディレクトリと資格証明の指定](#)」画面
(拡張インストールのみ)

インベントリ・ディレクトリのフルパスを入力してください：
インベントリ・ディレクトリのフルパスを入力します。製品
ファイルの Oracle ホーム・ディレクトリ以外のディレクトリを
入力します。

例 : `/home/oracle/oraInventory`

オペレーティング・システム・グループ名の指定：インベントリ・ディレクトリへの書き込み権限を付与するオペレーティング・システム・グループを選択します。

例：oinstall

「次へ」をクリックします。

- b. orainstRoot.sh の実行ダイアログ・ボックス**
(拡張インストールのみ)

別のシェルで root ユーザーとして orainstRoot.sh スクリプトを実行します。このスクリプトは、インベントリ・ディレクトリにあります。

スクリプトを実行した後、「続行」をクリックします。

- 4. 「ファイルの場所の指定」画面 (拡張インストールのみ)**

名前：この Oracle ホームを識別する名前を入力します。

例：apptier_home_10_1_2

インストール先パス：インストール先のディレクトリのフルパスを入力します。これが Oracle ホームです。インストール先のディレクトリが存在しない場合は、インストーラによって作成されます。

例：home/oracle/oraapptier

「次へ」をクリックします。

5. 「ハードウェアのクラスタ・インストール・モードの指定」画面
(拡張インストールのみ)

この画面は、コンピュータがハードウェア・クラスタの一部である場合にのみ表示されます。

ハードウェア・クラスタは Oracle Collaboration Suite アプリケーションでサポートされていないため、Oracle Collaboration Suite アプリケーションをインストールしている場合は「ローカル・インストール」を選択します。

「次へ」をクリックします。

6. 「インストールする製品の選択」画面 (拡張インストールのみ)

「**Oracle Collaboration Suite アプリケーション**」を選択します。

追加の言語をインストールする場合は、「**製品の言語**」をクリックします。

「次へ」をクリックします。

7. 「製品固有の前提条件のチェック」画面 (拡張インストールのみ)

この画面では、Oracle Collaboration Suite をインストールおよび構成するためのすべてのシステム要件をシステムが満たしていることを確認します。

注意: カーネル・パラメータのチェックに失敗し、必要な変更を加えた後で「再試行」をクリックした場合、インストーラではチェックが再実行されません。カーネル・パラメータを変更した後で、「ユーザー検証済」を選択して先に進んでください。変更を検証するには、インストーラを再起動する必要があります。

「次へ」をクリックします。

8. 「言語の選択」画面 (拡張インストールのみ)

この画面では、Oracle Collaboration Suite コンポーネントの実行に使用する言語を選択できます。

「使用可能な言語」リストから必要な言語を 1 つまたは複数選択し、「選択された言語」リストに追加します。

「次へ」をクリックします。

9. 「構成するコンポーネントの選択」画面 (拡張インストールのみ)

インストール時に構成する Oracle Collaboration Suite アプリケーション・コンポーネントを選択します。

「次へ」をクリックします。

注意: インストール中 (「インストール」ボタンをクリックする前) に、構成するアプリケーションのリストに変更を加える必要がある場合は、インストールを終了し、再起動する必要があります。

10. Oracle Internet Directory への登録 (拡張インストールのみ)

ホスト: Oracle Internet Directory が実行されるコンピュータの名前を入力します。

ポート: Oracle Internet Directory がリスニングするポート番号を入力します。ポート番号が不明な場合は、`portlist.ini` ファイルで Oracle Internet Directory のポートを確認してください。このファイルは、`ORACLE_HOME/install` ディレクトリにあります。

SSL を使用して Oracle Internet Directory に接続: Oracle Collaboration Suite のコンポーネントで SSL のみを使用して Oracle Internet Directory に接続する場合は、このオプションを選択します。

「次へ」をクリックします。

11. 「Oracle Internet Directory のユーザー名およびパスワードの指定」画面
(拡張インストールのみ)

ユーザー名 : Oracle Internet Directory にログインするためのユーザー名を入力します。 Oracle Internet Directory スーパーユーザーの場合は、 cn=orcladmin をユーザー名として使用します。

パスワード : ユーザーのパスワードを入力します。

「次へ」をクリックします。

12. 「OracleAS Metadata Repository」画面 (拡張インストールのみ)

データベース接続文字列 : このアプリケーション層インスタンスに使用する OracleAS メタデータ・リポジトリを選択します。インストーラによって、選択した OracleAS メタデータ・リポジトリにこのインスタンスが登録されます。

「次へ」をクリックします。

13. 「コンポーネント用のデータベースの選択」画面
(拡張インストールのみ)

この画面には、「構成するコンポーネントの選択」画面で選択した各コンポーネントに対して使用されるデータベースが表示されます。

「次へ」をクリックします。

14. 「ポート構成オプションの指定」画面 (拡張インストールのみ)

コンポーネントのデフォルトのポートを使用するには、「**自動ポート選択**」を選択します。

デフォルト・ポートを使用しない場合は、「**ポートを手動で指定**」を選択し、ポートの指定対象のコンポーネントを選択します。

注意: 「自動」オプションでは、Web Cache HTTP リスニング・ポートの場合は 7777 ~ 7877 のポート、SSL を使用する Web Cache HTTP リスニングの場合は 4443 ~ 4543 のポートのみが使用されます。Web Cache HTTP リスニング・ポートに 80、SSL を使用する Web Cache HTTP リスニングに 443 をポート番号として設定する必要がある場合、「**ポートを手動で指定**」オプションを選択する必要があります。

「次へ」をクリックします。

15. 「管理パスワードおよびインスタンス名の指定」画面

(拡張インストールのみ)

インスタンス名: Oracle Collaboration Suite 管理アカウントの OracleAS インスタンスの名前を指定します。

管理パスワード: Oracle Collaboration Suite 管理アカウントの初期パスワードを指定します。

パスワードの確認: パスワードを確認します。

「次へ」をクリックします。

16. 「Oracle Calendar Server ホストのエイリアス」画面
(拡張インストールのみ)

ホストまたはエイリアス : カレンダ・サーバー・インスタンスのホスト・アドレスまたは別名を指定します。

注意 : 後でカレンダ・サーバー・インスタンスを移動したり、ホスト名を変更したりする場合は、ホスト名のかわりに別名を使用することをお薦めします。別名が構成されていない場合は、ホスト名を指定します。

「次へ」をクリックします。

17. 「Oracle Mail ドメイン情報の指定」画面 (拡張インストールのみ)

Mail ドメイン : IMAP/SMTP のローカル (ネットワーク)・ドメインまたはその他のメール・プロトコルを指定します。

「次へ」をクリックします。

18. 「サマリー」画面

選択内容を確認し、「**インストール**」をクリックします。

インストーラによってファイルがインストールされます。

19. 「root.sh の実行」ダイアログ・ボックス

注意: このダイアログ・ボックスが表示されるまで、root.sh スクリプトは実行しないでください。

このダイアログ・ボックスが表示されたら、root ユーザーとして別のシェルで root.sh スクリプトを実行します。スクリプトは、このインスタンスの Oracle ホーム・ディレクトリにあります。

「OK」をクリックします。

20. 「コンフィギュレーション・アシスタント」画面

この画面には、コンフィギュレーション・アシスタントの進捗状況が表示されます。コンフィギュレーション・アシスタントによって、Oracle Collaboration Suite コンポーネントが構成されます。

21. インストールの終了画面

「終了」をクリックしてインストーラを終了します。

注意: インストールの最後に表示される情報は、\$ORACLE_HOME/install/setupinfo.txt ファイルにも格納されています。このファイルには、Oracle Collaboration Suite に関する概要情報と、URL へのリンクが含まれています。

8 インストール後のタスク

Oracle Collaboration Suite アプリケーションをインストールした後、次の手順を実行します。

1. Oracle Mail をインストールしている場合、root としてログインします。
2. ORACLE_HOME を設定します。
3. 次のように TNS リスナーを起動します。

```
tnslnsr listener_es -user user_id -group group_id &
```

9 要件のチェック

使用するコンピュータが最小要件を満たしていることを確認します。

- ハードウェア要件のチェック
- 必要な Solaris パッチのインストール
- Solaris パッケージのチェック
- 64 ビット・アプリケーションのサポートのチェック
- カーネル・パラメータのチェック
- インベントリ・ディレクトリのオペレーティング・システム・グループの作成
- データベース管理用のオペレーティング・システム・グループの作成
- オペレーティング・システム・ユーザーの作成
- 環境変数のチェック
- ポート 1521 が使用されているかどうかのチェック

9.1 ハードウェア要件のチェック

コンピュータは、次の各項に示すハードウェア要件を満たしている必要があります。

プロセッサおよびネットワークの要件

- v9 アーキテクチャを持つ SPARC プロセッサ
- 450MHz 以上のプロセッサ速度を推奨します。次のコマンドを使用して、プロセッサの速度を測定します。

```
# /usr/sbin/psrinfo -v
```

- ネットワークの接続性
- 静的インターネット・プロトコル (IP) アドレス

その他のシステム要件

表 1 に、その他のシステム要件を示します。

表 1 最小システム要件

項目	最小要件	コマンド
メモリー	Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャ : 1GB Oracle Collaboration Suite アプリケーション : 1GB Oracle Collaboration Suite データベース : 1GB	/usr/sbin/prtconf grep Memory
	注意 : 1 台のコンピュータに Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャおよびアプリケーションをインストールする場合は、2GB 以上をお薦めします。	
ディスク領域	Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャ : 8GB Oracle Collaboration Suite アプリケーション : 5GB Oracle Collaboration Suite データベース : 5.4GB	df -k dir Oracle ホーム・ディレクトリがまだ存在していない場合は、dir を Oracle ホーム・ディレクトリまたは親ディレクトリに置き換えます。

表 1 最小システム要件（続き）

項目	最小要件	コマンド
/tmp ディレクトリの領域	250MB	df -k /tmp /tmp ディレクトリに十分な空き領域がない場合は、TMP 環境変数を設定して別のディレクトリを指定します。
スワップ領域	1.5GB	/usr/sbin/swap -l 追加のスワップ領域の構成の詳細は、オペレーティング・システムのドキュメントを参照してください。
モニター	256 色表示	/usr/openwin/bin/xwininfo Depth 行を探します。各ピクセルに 8 ビット以上の深度が必要です。

9.2 必要な Solaris パッチのインストール

コンピュータに次のパッチがあることを確認します。

Solaris 8 に必要なパッチ

- 108652-82 以上 : X11 6.4.1: Xsun のパッチ
- 108921-21 以上 : CDE 1.4: dtwm のパッチ
- 108940-62 以上 : Motif 1.2.7 および 2.1.1: ランタイム・ライブラリのパッチ
- 108773-18 以上 : IIM および X 入出力メソッドのパッチ
- 111310-01 以上 : /usr/lib/libdhcpagent.so.1 のパッチ
- 109147-28 以上 : リンカーのパッチ
- 111308-04 以上 : /usr/lib/libmymalloc.so.1 のパッチ
- 112438-03 以上 : /kernel/driv/random のパッチ
- 108434-17 以上 : C++ 用 32 ビット共有ライブラリのパッチ
- 108435-17 以上 : C++ 用 64 ビット共有ライブラリのパッチ
- 111111-04 以上 : /usr/bin/nawk のパッチ
- 112396-02 以上 : /usr/bin/fgrep のパッチ
- 110386-03 以上 : RBAC 機能のパッチ
- 111023-03 以上 : /kernel/fs/mntfs および /kernel/fs/sparcv9/mntfs のパッチ
- 111317-05 以上 : /sbin/init および /usr/sbin/init のパッチ

- 113648-03 以上 : /usr/sbin/mount のパッチ
- 115827-01 以上 : /sbin/sulogin および /sbin/netstrategy のパッチ
- 116602-01 以上 : /sbin/uadmin および /sbin/hostconfig のパッチ
- 108987-13 以上 : patchadd および patchrm 用のパッチ
- 108528-29 以上 : カーネルの更新パッチ
- 108989-02 以上 : /usr/kernel/sys/acctctl および /usr/kernel/sys/exacctsys のパッチ
- 108993-36 以上 : LDAP2 クライアント、libc、libthread および libnsl ライブリのパッチ
- 109326-14 以上 : libresolv.so.2 および in.named のパッチ
- 110615-11 以上 : sendmail のパッチ

Solaris 9 に必要なパッチ

- 113096-03 以上 : X11 6.6.1: OWconfig のパッチ
- 112785-35 以上 : X11 6.6.1: Xsun のパッチ

パッチの有無の確認方法

コンピュータにインストールされているパッチを特定するには、次のようにします。

1. -p オプションを指定して showrev コマンドを使用します。次のコマンドを使用すると、ソートされたされた出力が patchList というファイルに保存されます。

```
# showrev -p | sort > patchList
```

2. vi または emacs などのテキスト・エディタでファイルを開き、パッチ番号を検索します。

パッチが必要な場合

パッチは次の場所からダウンロードできます。

<http://sunsolve.sun.com>

9.3 Solaris パッケージのチェック

コンピュータに次のパッケージがあることを確認します。

- SUNWarc
- SUNWbtool
- SUNWhea
- SUNWlibm
- SUNWlibms
- SUNWsprot
- SUNWsprox

注意： このパッケージは、Solaris 10 (SPARC 64 ビット) インストールには不要です。

- SUNWtoo
- SUNW1lof (i の後ろの文字は、エルではなく数字の 1 です。)
- SUNWxwfnt
- SUNW1lcs (i の後ろの文字は、エルではなく数字の 1 です。)
- SUNW115cs (i の後ろの文字は、エルではなく数字の 1 です。)

オペレーティング・システムの必須パッケージがコンピュータにインストールされているかどうかを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
# pkginfo SUNWarc SUNWbtool SUNWhea SUNWlrbm SUNWlibms SUNWsprot
SUNWsprox SUNWtoo SUNWilof SUNWxwfnt SUNWilcs SUNWil5cs
```

コンピュータにパッケージがない場合、システム管理者に問い合わせてください。

9.4 64 ビット・アプリケーションのサポートのチェック

64 ビット・アプリケーションをサポートするようにコンピュータが構成されていることをチェックします。これをチェックするには、次のコマンドを使用します。

```
# /usr/bin/isainfo -v
64-bit sparcv9 applications
32-bit sparc applications
```

出力では 64-bit sparcv9 applications 行が表示されます。それ以外の場合、64 ビット・アプリケーションをサポートするようにコンピュータを再構成する必要があります。システム管理者に問い合わせてください。

9.5 カーネル・パラメータのチェック

必須カーネル・パラメータが、示されている式、または次の各項で示されている推奨値以上に設定されていることを確認します。

Solaris 8 および Solaris 9 オペレーティング・システム

Solaris 8 および Solaris 9 オペレーティング・システムでカーネル・パラメータをチェックするには、次の手順を実行します。

1. テキスト・エディタで `/etc/system` ファイルを開きます。
`/etc/system` ファイルを編集するには、root ユーザーである必要があります。
2. 次のようにして、パラメータが最小値以上に設定されていることをチェックします。
 - `set semsys:seminfo_semmni=100`

注意： アプリケーション層のインストールの場合、`semmni` パラメータの値は 554 以上に設定する必要があります。

- `set semsys:seminfo_semmns=256`

注意： アプリケーション層のインストールの場合、`semmns` パラメータの値は 1024 以上に設定する必要があります。

- set semsys:seminfo_semmnu=1042
 - set semsys:seminfo_semmsl=256
 - set semsys:seminfo_semaem=16384
 - set semsys:seminfo_semopm=12
 - set semsys:seminfo_semume=42
 - set semsys:seminfo_semvmx=32767
 - set shmsys:shminfo_shmmax=4294967295
 - (Solaris 8 のみ) set shmsys:shminfo_shmmin=1
 - (Solaris 8 のみ) set shmsys:shminfo_shmseg=10
-
-

注意：アプリケーション層のインストールの場合、shmseg パラメータの値は 17 以上に設定する必要があります。

- set shmsys:shminfo_shmmni=100
-
-

注意：アプリケーション層のインストールの場合、shmmni パラメータの値は 117 以上に設定する必要があります。

- set msgsys:msginfo_msghmax=4096
 - set msgsys:msginfo_msghnmi=3774
 - set msgsys:msginfo_msghql=2500
 - set msgsys:msginfo_msghnb=360000
 - set rlim_fd_cur=1024
 - set rlim_fd_max=4117
 - set noexec_user_stack=1
3. ファイル内のパラメータの値を変更した場合、新しい値を有効にするにはコンピュータを再起動します。

Solaris 10 オペレーティング・システム

Solaris 10 オペレーティング・システムでカーネル・パラメータをチェックするには、次の手順を実行します。

1. テキスト・エディタで `/etc/system` ファイルを開きます。
`/etc/system` ファイルを編集するには、`root` ユーザーである必要があります。
2. Solaris 10 では、System V TPC を実装するために `/etc/system` ファイルに変更を行う必要はありません。Solaris 10 では、その実装にリソース制御機能を使用します。表 2 に示すカーネル・パラメータが、示されている推奨値以上に設定されていることを確認してください。表には、特定のカーネル・パラメータについて `/etc/system` ファイルのかわりに使用されるリソース制御も示されています。

表 2 Solaris 10 システムのカーネル・パラメータおよびリソース制御設定

パラメータ	かわりに使用されるリソース制御	推奨値
noexec_user_stack	NA	1
semsys:seminfo_semmni	project.max-sem-ids	100
semsys:seminfo_semmsl	project.max-sem-nsems	256
shmsys:shminfo_shmmax	project.max-shm-memory	4294967295
shmsys:shminfo_shmmni	project.max-shm-ids	100

3. リソース制御の現在の値を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
# id -p // to verify the project id
uid=0(root) gid=0(root) projid=1 (user.root)
# prctl -n project.max-shm-memory -i project user.root
# prctl -n project.max-sem-ids -i project user.root
```

4. 現在の値のいずれかを変更する必要がある場合は、次のようにします。

- a. max-shm-memory の値を 6GB に変更するには、次のようにします。

```
# prctl -n project.max-shm-memory -v 6gb -r -i project
user.root
```

- b. max-sem-ids の値を 256 に変更するには、次のようにします。

```
# prctl -n project.max-sem-ids -v 256 -r -i project
user.root
```

9.6 インベントリ・ディレクトリのオペレーティング・システム・グループの作成

今回初めて Oracle 製品をコンピュータにインストールする場合は、インベントリ・ディレクトリのオペレーティング・システム・グループを作成します。インストーラでは、インベントリ・ディレクトリにファイルが作成され、コンピュータにインストールされた Oracle 製品が管理されます。

このマニュアルでは、このグループに `oinstall` という名前を使用します。60 ページの「[オペレーティング・システム・ユーザーの作成](#)」で、オペレーティング・システム・ユーザーを作成し、このグループをユーザーのプライマリ・グループとして設定します。

インベントリ・ディレクトリの個別のグループを持つことにより、別のユーザーがコンピュータに Oracle 製品をインストールできるようになります。ユーザーには、インベントリ・ディレクトリへの書き込み権限が必要です。書き込み権限は、`oinstall` グループに属することによって付与されます。

インベントリ・ディレクトリのデフォルト名は、`oraInventory` です。

コンピュータにすでにインベントリ・ディレクトリがあるかどうかが不明の場合は、`/home/oracle/oraInst.loc` ファイルを検索してください。このファイルには、インベントリ・ディレクトリの場所と所有しているグループが一覧表示されています。このファイルがない場合は、コンピュータに Oracle 製品がインストールされていません。

グループの作成方法

ローカル・オペレーティング・システム・グループを作成するには、次のように Solaris Management Console を使用します。

1. Solaris Management Console のウィンドウを表示するモニターを指定するよう、DISPLAY 環境変数を設定します。DISPLAY 環境変数の書式は次のとおりです。

```
hostname:display_number.screen_number
```

例 (C シェル) :

```
% setenv DISPLAY test.mycompany.com:0.0
```

例 (Bourne または Korn シェル) :

```
$ DISPLAY=test.mycompany.com:0.0; export DISPLAY
```

2. Solaris Management Console を起動します。

```
# /usr/sadm/bin/smc
```

3. 左側のフレームで、「**This Computer**」を開き、「**System Configuration**」を開きます。

4. 「**Users**」をクリックします。Log In ウィンドウが表示されます。

5. Log In ウィンドウで、root ユーザーとしてログインします。

6. 左側のフレームで、「Users」を開き、「Groups」を選択します。
7. 「Action」を選択し、「Add Group」を選択します。
8. 「Group Name」に、グループ名として oinstall と入力します。
9. この手順はオプションです。「Group ID Number」フィールドにグループの ID 番号を入力します。
10. 「OK」をクリックします。

9.7 データベース管理用のオペレーティング・システム・グループの作成

前述の項と同じ手順を使用して、dba というオペレーティング・システム・グループを作成します。

次にオペレーティング・システム・ユーザーを作成するときに、この dba グループをユーザーのセカンダリ・グループとして設定します。

9.8 オペレーティング・システム・ユーザーの作成

Oracle 製品をインストールおよびアップグレードするオペレーティング・システム・ユーザーを作成します。このマニュアルでは、このユーザーを oracle ユーザーと呼びます。

ユーザーの作成方法

ローカル・オペレーティング・システム・ユーザーを作成するには、次のように Solaris Management Console を使用します。

1. Solaris Management Console のウィンドウを表示するモニターを指定するように、DISPLAY 環境変数を設定します。DISPLAY 環境変数の書式は次のとおりです。

```
hostname:display_number.screen_number
```

例 (C シェル) :

```
% setenv DISPLAY test.mycompany.com:0.0
```

例 (Bourne または Korn シェル) :

```
$ DISPLAY=test.mycompany.com:0.0; export DISPLAY
```

2. Solaris Management Console を起動します。

```
# /usr/sadm/bin/smc
```

3. 左側のフレームで、「**This Computer**」を開き、「**System Configuration**」を開きます。

4. 「**Users**」をクリックします。Log In ウィンドウが表示されます。
5. Log In ウィンドウで、「**User Name**」に **root** と入力します。
「**Password**」に **root** のパスワードを入力します。

6. 左側のフレームで、「Users」を開き、「User Accounts」を選択します。
7. 「Action」を選択します。
8. 「Add User」を選択し、「With Wizard」を選択します。
9. 「User Name」にユーザー名 (oracle) を入力します。「Full Name」および「Description」フィールドはオプションです。「Next」をクリックします。
10. 「User ID Number」のデフォルト値を受け入れます。「Next」をクリックします。
11. 「User Must Use This Password At First Login」を選択し、ユーザーのパスワードを入力します。「Next」をクリックします。
12. 「Primary Group」で、ユーザーのプライマリ・グループを選択します。これは、以前にインベントリ・ディレクトリに作成したグループです。詳細は、58 ページの「インベントリ・ディレクトリのオペーレーティング・システム・グループの作成」を参照してください。「Next」をクリックします。
13. 「Path」に、ユーザーのホーム・ディレクトリを入力します。「Next」をクリックします。
14. ユーザーのメール・サーバー情報を確認し、「Next」をクリックします。

15. ユーザー情報を確認し、「Finish」をクリックしてユーザーを作成します。

オペレーティング・システム・ユーザーが属するグループをチェックするには、ユーザー名を指定して `groups` コマンドを使用します。次に例を示します。

```
# groups oracle
```

9.9 環境変数のチェック

Oracle Collaboration Suite をインストールするオペレーティング・システム・ユーザーは、次の環境変数を設定または解除する必要があります。

表 3 環境変数

環境変数	設定または解除
DISPLAY	インストーラのウィンドウを表示するモニターに設定します。
ORACLE_HOME	設定しません。
ORACLE_SID	設定しません。
TNS_ADMIN	設定しません。

表 3 環境変数（続き）

環境変数	設定または解除
PATH、CLASSPATH および LD_LIBRARY_PATH	いずれかの Oracle ホーム・ディレクトリの ディレクトリへの参照を含まないようにする必要があります。
TMP	オプションです。設定を解除すると、デフォルトで /tmp に設定されます。

環境変数の設定方法

この項では、環境変数の設定方法について説明します。

C シェルを使用する場合：

```
% setenv variable_name value
```

例（C シェル）：

```
% setenv DISPLAY test.mycompany.com:0.0
```

Bourne または Korn シェルを使用する場合：

```
$ variable_name=value; export variable_name
```

例（Bourne または Korn シェル）：

```
$ DISPLAY=test.mydomain.com:0.0; export DISPLAY
```

環境変数のヒント

この項では、環境変数を設定する際の注意事項をいくつか説明します。

- `.profile` ファイルで環境変数を設定すると、読み込まれない場合があります。環境変数が正しい値に設定されていることを確認するには、インストーラを実行するシェルでこれらの値を調べます。
- 環境変数の値を調べるには、`env` コマンドを使用します。このコマンドを使用すると、現在定義されている環境変数とその値がすべて表示されます。

```
prompt> env
```

- ユーザーの切替え(`root` ユーザーから `oracle` ユーザーへの切替えなど) に `su` コマンドを使用する場合は、環境変数が新規ユーザーに渡されないことがあるため、新規ユーザーの場合は環境変数を確認します。- パラメータを指定して `su` を使用した場合 (`su - user`) も、環境変数が新規ユーザーに渡されないことがあります。

```
# /* root user */
# su - oracle
% env
```

9.10 ポート 1521 が使用されているかどうかのチェック

この項は、Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャをインストールする場合にのみ適用されます。

Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャは、デフォルトでポート 1521 を使用する Oracle データベースをインストールします。

ポート 1521 が使用されているかどうかをチェックするには、次のようにします。

```
# netstat -an | grep 1521
```

ポート 1521 がサード・パーティ・アプリケーションで使用されている場合は、別のポートを使用するようにアプリケーションを構成する必要があります。

ポート 1521 が既存の Oracle データベース・リスナーで使用されている場合は、Oracle Collaboration Suite インフラストラクチャをインストールする前にリスナーを停止する必要があります。

10 「ようこそ」 ページへのアクセス

インストール後に、Oracle Collaboration Suite の「ようこそ」 ページにアクセスして、インストールが正常に終了したことを確認します。「ようこそ」 ページの URL は次のとおりです。

`http://hostname.domainname:port`

ORACLE_HOME/install/portlist.ini ファイルを参照して、`port` を判別します。ポートは、Oracle HTTP Server listen port 行にリストされています。

注意： 1 台のコンピュータに Oracle Collaboration Suite の複数のインスタンスをインストールした場合は、各インスタンスが独自のポート番号セットを持ちます。適切な Oracle ホーム・ディレクトリの portlist.ini ファイルをチェックして、正しいポート番号を使用していることを確認してください。

「ようこそ」ページには、次のような有用なページへのリンクがあります。

- Oracle Collaboration Suite 10g リリース 1 (10.1.2) の新機能
- ブラウザベースの管理ツールである Oracle Enterprise Manager Application Server Control (Application Server Control)
- リリース・ノート
- デモ

11 追加情報

この項では、次の内容について説明します。

- [製品のライセンス](#)
- [オラクル社カスタマ・サポート・センターへのお問合せ](#)
- [製品マニュアルの入手方法](#)

11.1 製品のライセンス

このメディア・パックに含まれている製品は、トライアル・ライセンス契約に基づき、30日間、インストールおよび評価できます。ただし、30日間の評価期間後もいざれかの製品の使用を継続する場合、プログラム・ライセンスをご購入いただく必要があります。

11.2 オラクル社カスタマ・サポート・センターへのお問合せ

Oracle 製品サポートをご購入いただいた場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに、年中無休で 24 時間いつでも、お問い合わせいただけます。Oracle 製品サポートの購入方法、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡方法の詳細は、オラクル社カスタマ・サポート・センターの Web サイトを参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

11.3 製品マニュアルの入手方法

Oracle 製品のマニュアルは、HTML および Adobe 社 PDF 形式で提供されており、入手方法がいくつかあります。

- メディア・パック内のディスク：
 - プラットフォーム固有のマニュアルは、製品ディスクに含まれています。マニュアルにアクセスするには、CD-ROM のトップレベル・ディレクトリにある `welcome.htm` ファイルを参照してください。

- Oracle Technology Network Japan の Web サイト：

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

PDF ドキュメントを表示するには、必要に応じて、Adobe 社の Web サイトから、無料の Adobe Acrobat Reader をダウンロードしてください。

<http://www.adobe.com/>

12 その他の情報

12.1 クイック・リファレンス

リソース	連絡先 / Web サイト
開発者向けのテクニカル・リソース にアクセスできます。	http://otn.oracle.co.jp/
インストール・マニュアルにアクセス できます。	http://otn.oracle.co.jp/tech/install/
サポート・サービスに関する情報に アクセスできます。	http://www.oracle.co.jp/support/
日本オラクル技術営業の連絡先です。 日本オラクル技術営業の連絡先です。	0120-155-096 (受付時間等の詳細は後述します。)

注意：ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

12.2 オラクル製品のインストールに関する情報

オラクル製品のインストールに関する情報およびマニュアルを提供しています。

次の URL を参照してください。ただし、個々の環境に依存する問題または検証が必要となるようなケースでは、サポート・サービス（有償）の契約が必要になりますのでご了承ください。

□ OTN インストール・センター

<http://otn.oracle.co.jp/>

「OTN」 → 「テクノロジーセンター」 → 「インストール」

□ Oracle Technology Network 掲示板

<http://otn.oracle.co.jp/>

「OTN」 → 「掲示板」 → 「ビギナー」 の「初心者の部屋」

□ インストレーション・ガイド・ダウンロード

<http://otn.oracle.co.jp/>

「OTN」 → 「ドキュメント」 → 「製品名」 → 「OS」

□ 製品 FAQ 検索

<http://support.oracle.co.jp/>

「Oracle Internet Support Center」→「製品 FAQ 検索」

キーワード：「インストール」、「install」など

これらのキーワードを参照しても解決されないインストール時の不明点または問題点については支援サービスを提供しています。次のオラクル製品が対象になりますので次の URL から質問してください。

http://www.oracle.co.jp/install_service/

- 対象製品：

Oracle Database Standard Edition

Oracle Database Personal Edition

Oracle9i Application Server Java Edition

Oracle Application Server 10g Java Edition

- 対象 OS:

Linux x86

Microsoft Windows

12.3 Oracle Technology Network Japan

OTN Japan は開発者に必要な技術リソースを提供する登録制、日本オラクル公式技術サイトです。OTN Japan に登録（無償）していただくと、技術資料、オンライン・マニュアル、ソフトウェア・ダウンロード、サンプル・コード、掲示板、ポイント・プログラム、オラクル関連書籍のディスクアント、OTN 有償プログラムなど様々なサービスを受けることができます。

□ OTN Japan 登録方法

<http://otn.oracle.co.jp/>

この URL から「OTN の歩き方」を参照してください。

□ 技術資料

<http://otn.oracle.co.jp/products/>

オラクル製品の最新情報を提供します。目的とする技術資料を容易に参照できるわかりやすいカテゴリになっています。

□ ソフトウェア・ダウンロード

<http://otn.oracle.co.jp/software/>

オラクル製品のトライアル版、早期アクセス版、ユーティリティ、ドライバなどを無償でダウンロードできます。最新バージョンをタイムリーに掲載していますので、OTN Japan で提供している技術資料、ドキュメント等とあわせて使用することにより、いち早く最新のオラクル・テクノロジを体験できます。

□ ドキュメント

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

オラクル製品のインストレーション・ガイド、リリース・ノート等のドキュメント（マニュアル）を掲載しています。製品に同梱されているドキュメントから有償マニュアルにいたるまで、最新のドキュメントをタイムリーに掲載しています。

□ サンプル・コード

http://otn.oracle.co.jp/sample_code/

開発者に参考としていただけるよう、プログラムのサンプルを掲載しています。オラクル最新テクノロジに準拠したサンプル・プログラムの数々をお役立てください。

□ 掲示板

<http://otn.oracle.co.jp/forum/>

オラクル製品を使用して開発される皆様のためのコミュニティです。Web によるディスカッション・フォーラム（掲示板）を通して、オラクル開発者間での情報交換ができます。それぞれの開発ノウハウを共有することで、より効率的な開発ができます。OTN 掲示板専用のビューア「OTN Viewer」も使用していただけます。

□ ポイント・プログラム

<http://otn.oracle.co.jp/point/index.html>

OTN Japan 活性化に貢献された会員の皆様にポイント進呈する OTN ポイント・プログラムを設けています。獲得ポイントは OTN グッズと交換したり、掲示板投稿時の懸賞ポイントとして使用できます。

□ OTN 有償プログラム

<http://otn.oracle.co.jp/upgrade/index.html>

OTN 有償プログラムは、OTN 会員の皆様向けの有償アップグレード・サービスです。OTN Japan サイトで提供している無償サービスに加え、最新のオラクル製品を開発ライセンスで使用していただける OTN Software Kit（日本語版 CD-ROM）の送付やオラクル技術書籍ご購入時のディスカウントなど、有償ならではの様々なサービスを提供します。

□ お薦めサービス「SQL 構文検索サービス」

<http://otn.oracle.co.jp/document/sqlconst/>

SQL 文や SQL 関数をオンラインで参照できる SQL 構文検索サービスです。

□ お薦めサービス「エラー・メッセージ検索（Oracle9i）」

<http://otn.oracle.co.jp/document/msg/>

オラクル製品の使用中に表示されるエラー・メッセージについて検索できます。

□ お薦めサービス 「TechBlast メールサービス」

<http://otn.oracle.co.jp/techblast/>

OTN Japan では、配信を希望された会員の皆様へほぼ月に 1 ~ 2 回
メールをお送りしています。新着情報のほか、会員の皆様に是非とも
お知らせしたいセミナーやイベント情報、製品や最新技術に関する連
載を掲載しています。

12.4 OracleDirect

OracleDirect では、電話とインターネットを通じて、製品ご購入前のオラ
クル製品に関するご質問をはじめとする、お客様からの様々なお問合せに
対応いたします。

OracleDirect に関する詳細は、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/contact/>

□ お問合せ先

TEL: 0120-155-096

FAX: 03-4326-5020

Web 問合せ : <http://www.oracle.co.jp/contact/>

受付時間 : 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 18:00（土、日、祝祭日、年末年始
を除く）

また、OracleDirect にてお受けできるご質問内容は次のとおりとなりますので、ご連絡の前に確認をお願いいたします。

□ ご質問にお答えできる内容（概要）

- 製品に関して日本国内で公表されている一般的な内容
 - 出荷日、出荷予定日
 - 価格およびライセンス
 - システム要件
 - ハードウェア（メモリ容量、ディスク容量）
 - ソフトウェア（対応 OS、対応コンパイラなど）
 - 製品の基本機能（カタログに記載されているレベルまで）
 - 製品バージョン（RDBMS、Net 等の接続対応バージョンの案内）
 - サポート・サービス契約の概要
サポート・サービス契約の照会、確認、お見積もりはディストリビューションセンターまでお願いいたします。
- カタログ、資料請求、セミナー内容に関するお問合せ
- お客様の個別環境への提案
- 製品概要の説明や応用例、システム構成について営業担当者への直接相談

次のお問合わせにはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

- マニュアルに関するご質問（オンライン・マニュアルも含む）
- 国内未発表の内容（日本オラクルが正式に公表した内容以外のもの）
- 他社から販売されているオラクル関連製品に関するお問合せ
- 技術的な内容（テクニカルサポート・レベル）

12.5 サポート・サービス

オラクルではお客様のシステムの健康状態を維持するために、Oracle Support Services をご用意しています。オラクル製品の専門技術者が、様々な形でお客様の問題解決のお手伝いをいたします。

- 障害回避策提示
- 修正プログラムの提供
- インターネット・サポート
- 技術情報の提供など

Oracle Support Services のサポート・サービス契約をお持ちのお客様は、次の技術サポートを受けられます。サポート・サービスには電話やインターネットによる技術サポートのほか、インターネット上での各種技術情報へのアクセス、ご契約済み製品のバージョンアップ用メディアの提供、Oracle Support NewsLetter（毎月）の提供などが含まれます。

□ 技術サポート

ご契約のお客様は、インターネットおよび電話による技術サポートを受けられます。お問合せは、毎日 24 時間受け付けております。お問合せの方法についての詳細は、初回ご契約時にお送りする「Oracle Support User's Guide」をご覧ください。

インターネットでは、次の Web サイトで Oracle Support Services について紹介しています。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

□ OiSC (Oracle internet Support Center)

サポート・センターでは、24 時間ご利用いただけるポータル Web サイトとして OiSC をご用意し、お客様に役立つサポート・サービス関連情報を提供しています。

- サポート関連の新着情報
- インターネット上での Oracle Support NewsLetter の参照
- パッチのダウンロード

- お問合せの受付、更新、状況確認
- 後述の MetaLink へのリンク
- サービス内容のご紹介

□ KROWN

ディレクトリ・サービスやキーワード検索サービスを備えた、25,000 タイトル以上からなる技術情報です。前記 OiSC からご利用ください。

□ MetaLink

Oracle Support Services をご契約のお客様は、Web によるサポート・サービスである MetaLink を 24 時間ご利用いただけます。MetaLink は、全世界から集められた英語での技術情報が収録されている知識ベースです。インターネット上でご覧いただけます。

□ Oracle Support NewsLetter

毎月更新されるサポート技術情報や、新しいバージョンの製品情報などを Email または Web でお届けします。Oracle Support NewsLetter には以下の情報が掲載されています。

- 毎月の新着情報
- 技術情報 (Q&A、Oracle User バックナンバーなど)
- お客様へのご案内
- Oracle Support NewsLetter は OiSC でもご覧いただけます。

□ お問合せ先

日本オラクル株式会社 ディストリビューションセンター

TEL: 0570-093812

受付時間: 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00（土、日、祝祭日、年末年始を除く）

ディストリビューションセンターでは、Oracle Support Services のサポート・サービス契約について、次のような情報をご案内いたします。

- 新規サポート・サービス契約に関するご相談
- サポート・サービス契約に基づくサービス内容のご紹介
- サポート・サービス契約書の記入方法
- サポート・サービス料金について

または、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

12.6 研修サービス

日本オラクルの研修サービスに関する詳しいお問合せは次までお願ひいたします。研修サービスに関する詳細は、次の Web サイトでもご紹介しています。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

□ お問合せ先

日本オラクル株式会社 オラクルユニバーシティ

TEL: 0120-155-092

FAX: 03-5766-4400

受付時間: 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00（土、日、祝祭日、年末年始を除く）

13 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

13.1 ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかしスクリーン・リーダーは括弧だけの行を読まない場合があります。

13.2 外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関する評価や言及は行っておりません。

